

問 次の文章を読み、著者の主張を踏まえ、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

現代の日本の時代相を表現するのに、「ダイナミック」という言葉ほどふさわしいものはない。

「ダイナミック」とは「動的な」という意味に解していただいて結構だが、私はそれに「非常に」という副詞をつける必要を、感じないではいられない。

激烈なダイナミズムを胚胎※ほいたしたこうした時代は、過去の日本にも存在した。

例えば、幕末である。

しかし、幕末の激変動と現代日本のそれを比較してみて気づくのは、前者が二つ、または三つの明確な立場がそれぞれに長期的な目標をもつてぶつかり合った結果生じた激変であるのに対して、今の日本の激変は、多様化した価値観が互いに衝突し合い、複雑な変動をとげていることに特徴がある。

では、私たちはどうしたら、このような激動の時代に対処できるのだろうか。

私たちにこれから最も要求されるのは、自分自身の判断力(多様な人生を生き抜く選択の智恵である)と考える力だと思う。

原理とか、原則とかに固執しては、多様性と、変動に対処していけないのである。変動と多様化に対処するための教科書は存在しない。自分自身で素心になり深く考え、その結果、最も賢明な選択をすることだけが、残された唯一の方法だと私は思うのだ。

こういうといかにも多難な時代のようなのであるが、実は私は、逆にむしろいい時代だと思っている。変動し、多様化する時代こそは、個人が自己の可能性を發揮しやすい時代だからだ。

十人十色というけれども、人は生まれた時に、すでに一人ひとり異なっている。外面だけではなく、性格、資質といった目に見えない部分も違う。だから、人それぞれ可能性は、当然、多種多様であるべきはずなのである。

ところが、人はともすると、この多様性に目をつむりたがるのだ。なぜか。安心したいからである。あるいは迷いたくないからである。例えば、一流大学に入り一流企業に就職するという、いわゆるエリートコースに身を置けば、迷うこともなく、不安にかられることもない、と人は考える。それゆえ、多様性に対して、人は目をつむりたがるのだ。

変動は、上は上、下は下といった、こうした直線的な進み方を変えるだろう。人はもはや、多様性に対して目をおおってはいられなくなるのだ。自分自身の可能性を懸命になって掘り当て、独自の生きがい創造しなければならなくなるのだ。

社会も、また、そのことをすべての人に要求せずにはいられなくなるに違いない。独自の生きがい創造できずに、変動に置いてきぼりにされ、多様化に見放され、絶望感に支配された人間が比重を占めるようになっては、社会はおびただしく混乱し、悪くすれば、覆くつがえってしまうからである。

独自の生きがいを創造するために、自分自身の中に眠っている可能性を掘り当ていかなければならない。それがいかに難しいことでも、労苦を伴うことでも、時代を生き抜くためには、そのことが必要になってくるのだ。

※胚胎…物事の起こる原因や兆しが生じること

・引用 「生きること学ぶこと」 広中平祐著 集英社文庫